

11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (九州)	◎	＊	＊	＊
	○	商店街（代表者）	お客様の様子	・高齢者の多い地方の商店街では、ワクチン接種が始まり、若干活気を取り戻しつつある。しかし、商品購入になると慎重な態度がみられる。
	○	一般小売店〔鮮魚〕（店員）	販売量の動き	・緊急事態宣言解除で消費が動き始めている。季節的なこともあるが、特にウナギの動きが良くなっており、これで土用の丑の日の希望が大きくなっている。
	○	スーパー（店長）	来客数の動き	・ワクチン接種率向上と感染者数減少に伴い、来客数は増加している。
	○	スーパー（経理担当）	販売量の動き	・前年のコロナ禍から見れば、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が適用されている状態とはいえ、都市部の客は戻っている。食料品は一般的に前々年には届かないが、前年の売上を超えており、来客数も戻ってきている。
	○	スーパー（統括者）	来客数の動き	・6月には、1人当たりの買上点数が減少し、客単価は横ばいであるが、緊急事態宣言の延長による巣籠り需要の影響で、来客数が増加し、その結果、売上は前年比を上回っている。特に総菜や酒は2桁の伸びを示している。
	○	コンビニ（経営者）	お客様の様子	・前年の低迷状態から、やや来客数増加になっているが、好調状態には程遠い。しかし、明るい指標であることには間違いないと受け止めている。
	○	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除され、現在、まん延防止等重点措置下にあり規制はあるものの、一般的にはコロナ慣れ、日中の人の動きは、コロナ禍前に近づきつつある。
	○	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・施策に対する反応が良く、商品実売数が上向き傾向である。スイーツ等では、高額商品の動きが良い。
	○	コンビニ（店長）	お客様の様子	・時間帯の来客数のリズムが、安定してきている。
	○	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・例年どおりの状況である。6月は農繁期となるため、動きの少ない時期である。
	○	住関連専門店（従業員）	お客様の様子	・外出自粛や時短営業等により、自宅内整理で寝具の買換えをする人が多い。本来であればこの時期は落ち着いているが、冬用寝具も動いている。
	○	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・県独自の緊急事態宣言が解除され、徐々にではあるが来客数が回復傾向にある。ワクチン接種の影響もあり、感染対策を徹底した上で、イベント等にもぎわいを見せている。
	○	観光型ホテル（専務）	来客数の動き	・先週から県民限定の宿泊客1名上限5千円の補助が始まり、個人の予約が入ってきたがまだまだ空室は多い。当社でも職域接種をするため、安心して接客できるようになる。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・宿泊は相変わらず低調であるが、レストランの来店客が増えており、新型コロナウイルス発生以前に近づいている。
	○	通信会社（営業担当）	お客様の様子	・週末のショッピングやドライブ先でも、店内の客が多くなっている。
	○	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・販売チャネル強化の結果が出て、販売量が伸びている。
	○	ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・梅雨らしい天候が続かず、入場者が順調に推移している。しばらくは、梅雨や台風の影響が多少あるが、全体的に増加傾向が続く。
	○	ゴルフ場（営業）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除され、人の動きが多くなり、来場者も増加している。
○	競馬場（職員）	来客数の動き	・客の入場が再開されるため、やや良くなる。	
○	その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	来客数の動き	・第4波の感染者数減少や高齢者のワクチン接種が進んでいることで、サービスキャンセルが大幅に減少している。	

□	商店街（代表者）	来客数の動き	・商店街のある地区では、高齢者のワクチン接種が2回終わり、安心して来街する客もいるが、まだまだ不要不急の外出は避けているため、商店街はまばらである。
□	商店街（代表者）	来客数の動き	・商店街のターゲットは年配層のため、新型コロナウイルスの影響で、年配層の来客数減少が続いている。特に、前年の6月は特別定額給付金やクレジット5%還元等の対策により多くの来街客がおり、かなり販売することができたため、前年と比較すると大きなダウンになっている。ワクチン接種が進み消費が戻ると期待している。
□	商店街（代表者）	来客数の動き	・来客数は新型コロナウイルスの影響で、前年の40%減少となり、悪い商況が続いている。
□	一般小売店〔食料雑貨〕（店員）	販売量の動き	・まん延防止等重点措置が解除され、各飲食店では客足の戻りに期待していたが、期待外れの状態が継続している。食用油の大幅な値上がりを受けて予約注文があり、一時的に売上が上がったが、今後も厳しい状態は続く。
□	百貨店（企画担当）	お客様の様子	・クリアランスが五月雨式に始まったものの、相変わらず必需品のみを目的に、短時間で買物を済ませる客が多くみられる。
□	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・天候や外出自粛の影響で、来客数の回復は鈍いが、県内でのワクチン接種促進や物産催事の再開等で、平日の滞留時間と午前の来客数が回復傾向にある。しかし、お中元商戦も始まり、来客数に期待したが、お中元ギフトセンターへの来場や受注は鈍い。一方、オンラインでの受注や通信販売、地方サテライトショップ、ギフトショップ等は、遠出を避けた地元での購買傾向が今月も継続している。
□	スーパー（店長）	販売量の動き	・売上動向としては、大きな変動はないが、食品の好調さは維持している。衣料品と住居関連商材の苦戦状況は変わらない。特に当県では、緊急事態宣言が6月20日まで実施されたこともあり、外出自粛の影響も大きい。
□	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・今月はワクチン接種が本格的に始まっているが、近隣の県の状況を見ると新型コロナウイルス感染者も減少していない。飲食店も時短営業要請があり、来客数が減少している。特に21時以降は、来客数が激減し売上減少が継続している。
□	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・来客数は横ばいである。要因は、仕事関係や学生の減少、また、飲食店やイベントの自粛にある。巣籠り需要も大きな伸びはなくなり、来客数減少による客単価減少は、ダメージが大きい。
□	コンビニ（エリア担当・店長）	来客数の動き	・周辺飲食店の営業時間が、少しずつ伸びていることで、夕方から夜に掛けて、客が時間をずらして来店している。全体では、来客数には変化がない。
□	衣料品専門店（総務担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスは収束に向かわず、来街者数が大幅に落ち、来客数の大幅な減少が顕著になっている。
□	住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・前年の6月は巣籠り需要や特別定額給付金等で、大幅な売上回復をしたが、今月の売上は減少している。来客数はあるものの、なかなか決定には至らず、都市部でのキャンペーンは陰りがみられる。
□	その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	お客様の様子	・今月の来客数は、新型コロナウイルスの影響で客足が鈍くなっていた前年同月と変わらないが、客単価が若干上昇し、売上が増加している。したがって、前月との比較ではやや良くなっている。
□	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・まだまだ新型コロナウイルスの影響で、新しい生活様式に慣れてきており、街での人の動きは少なく、回復には時間が掛かりそうである。しかし、ワクチン接種により状況は良くなるのではと期待をしている。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・当地においては、感染者数はかなり減少し、人の動きも徐々に増加しているものの、緊急事態宣言からまん延防止等重点措置へ移行し、相変わらず夜の繁華街は、活気が戻らない。

□	タクシー運転手	お客様の様子	・人の動きはほとんど変わりがなく、安心した生活を早く送りたい。
□	通信会社（営業担当）	来客数の動き	・来客数は、コロナ禍前より低水準で推移しており、回復の兆しはない。
□	美容室（店長）	お客様の様子	・冠婚葬祭も思うようにはできず、旅行やコンサートも行けず、今のところ皆限界が来ているようで、周りの景気は変わっていない。
□	設計事務所（所長）	単価の動き	・林業木材関係は、ウッドショックの影響で好調のようであるが、建築業界は材料単価や人件費の上昇で苦戦している。
□	住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・前月はゴールデンウィークの影響も若干あったが、それ以前と比べても来場者数はやや増加傾向になっている。
□	住宅販売会社（従業員）	単価の動き	・新型コロナウイルスの影響で、集客に苦慮していたが、現在購入意欲がある客は、新型コロナウイルスの状況をよそに購入に至っている。
▲	商店街（代表者）	来客数の動き	・人の動きがある季節であるが、梅雨入りが早く、また、新型コロナウイルスの影響で行動が制限され、売上は良くならない。
▲	商店街（代表者）	来客数の動き	・商店街では、5～6月の売上が前年比を割っている店が多く出ているため、組合では、7～8月の付加金を全額免除という決定をしている。
▲	一般小売店〔青果〕（店長）	単価の動き	・当地の中央市場の相場は、県外からのレタスが1玉50～80円で、前年の60～70%の金額に落ちている。全体が潤っておらず、当県でもそれなりの動きになっている。
▲	百貨店（企画担当）	来客数の動き	・3か月前の来客数は回復傾向にあったが、第4波の影響により、再度減少傾向に転じている。また、前年同時期は、特別定額給付金の効果で来客数が増加したが、今年はその施策もなく、今月の来客数は、前年を下回って推移している。
▲	百貨店（売場担当）	競争相手の様子	・今月の売上は、3か月前と比較すると減少している。衣料品関係は全店舗で売上が悪く、足を引っ張っている状況である。一方、食料品の売上は増加している。
▲	百貨店（業務担当）	お客様の様子	・コロナ禍の影響を受け2年目を迎えるが、客の来店は前年より戻りつつあるものの、実際の購買をみると購入額が低くなっている。節約志向が習慣化している。
▲	スーパー（総務担当）	来客数の動き	・感染者数も減少傾向となり、緊急事態宣言からまん延防止等重点措置に移行され、徐々に外出の機会も増加している。そうしたなか、巣籠り需要は前年ほどの力強さはなく、来客数は前年を下回るペースで推移しており、客の買い回りもコロナ禍以前の状況に戻りつつある。
▲	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルス第4波の影響が、想定以上に大きい。前年は、特別定額給付金の給付等もあり追い風だったが、緊急事態宣言が発出されていない地域でも外出自粛要請があるなど、これまでも増して、人の動きが抑制されている。
▲	コンビニ（店長）	販売量の動き	・客単価が減少している。
▲	衣料品専門店（店員）	来客数の動き	・20日までの緊急事態宣言中は来店自粛が多かったが、それ以降も客足は回復していない。
▲	衣料品専門店（取締役）	お客様の様子	・6月に入り、しびれを切らした客がぽつぽつとあるものの、新型コロナウイルスの影響で買物に出向く人がとても少ない状態である。感染者数増加の懸念があるため、厳しい状況である。
▲	家電量販店（店員）	販売量の動き	・前年に特別定額給付金が給付され、巣籠り需要が喚起される状況が継続していたが、そうした消費も一巡したようで、今月は若干悪くなっている。
▲	家電量販店（総務担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルス特需の反動と長梅雨により気温が上がらず、売上のけん引となる夏物商材の動きが鈍く、来客数にも大きく影響している。早めの梅雨明けを期待している。

▲	乗用車販売店 (総務担当)	販売量の動き	・半導体不足の影響で、長納期の新車が多くなっている。長くなると客の購買意欲が低下するため、危惧している。
▲	その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター] (支配人)	販売量の動き	・前年比ベースで数値が悪化している。当施設では、6月に入り来客数の減少はないものの、売上がややダウン傾向にある。5月までと比べると東京オリンピックや政治に対する不安から、買い控えが顕著である。
▲	高級レストラン (経営者)	来客数の動き	・5月の中旬から6月中旬まで、時短営業要請があり、その間客は全く出てこない。解除になり、若干予約が入っているが、まだまだ回復する状況にない。
▲	観光型ホテル (総務)	販売量の動き	・新型コロナウイルス第4波の影響で、運営しているホテルの全館売上は、3か月前の7割ほどである。首都圏の緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の解除により、下旬からようやく客足が戻っている状況である。
▲	通信会社 (統括者)	販売量の動き	・店舗の営業時間は、10～19時となっているため、前年と比較しても変更はないが、6月の携帯電話の販売台数を比較すると前年を下回ると予想している。
▲	通信会社 (業務担当)	販売量の動き	・5月の緊急事態宣言の影響を受け、売上が落ちている。
▲	美容室 (経営者)	販売量の動き	・通常では、春は忙しくなり、その後横ばい状態でも現状維持をしていたが、緊急事態宣言とまん延防止等重点措置の影響もあり、全く景気回復にならず、おしゃれ業界は苦戦している。大きな動きがない限り、客の動きがない状態が継続している。
▲	その他サービスの動向を把握できる者 (所長)	お客様の様子	・受注は、取引先の経費削減等で計画より遅くなっている。
▲	設計事務所 (代表)	来客数の動き	・集客のイベントができない。
×	商店街 (代表者)	来客数の動き	・緊急事態宣言中に想定していたが、解除になっても売上に変化がない。当店は年配の客が多いこともあり、外出自粛等の新しい生活様式に慣れてきたと考えている。
×	商店街 (代表者)	来客数の動き	・新型コロナウイルス対策のため、食料品の買いだめが目立っている。また、ワクチン接種が進み始め、全体的に人通りが止まっている。
×	一般小売店 [精肉] (店員)	販売量の動き	・緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の影響で、大幅に販売量が落ちている。
×	一般小売店 [生花] (経営者)	販売量の動き	・当店は生花がメインの花屋であるため、卒業式シーズンや退職等移動のある3月よりは、販売量が上がらないが、コロナ禍の状況から鑑みると例年同月と比較してそこまで悪くない。
×	一般小売店 [茶] (販売・事務)	来客数の動き	・梅雨入りが早く、6月とは思えないほどの暑い日が続いているため、日本茶販売にとっては最悪の状況となり、売上減少の要因となっている。来店客も少なく、新茶時期に大量に仕入れた茶葉も眠った状態である。
×	衣料品専門店 (店長)	来客数の動き	・売上が上向かない状況である。
×	家電量販店 (店長)	来客数の動き	・来客数の減少が続いている。他県独自の非常事態宣言解除の影響か、徐々に回復傾向にはあるが、まだまだ来客数回復には時間が掛かる。
×	その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター] (統括者)	来客数の動き	・緊急事態宣言となり、時短営業や休業もあり、客の動きが非常に悪い。ホテルも観光客減少になり、苦戦している。
×	その他飲食の動向を把握できる者 [酒卸売] (経理)	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染対策による、緊急事態宣言で飲食店時短営業や酒類提供禁止になり、主に飲食店との取引をしているため、売上激減になっている。
×	都市型ホテル (販売担当)	販売量の動き	・ビジネス客の動きや週末の家族連れ等の動きも良くない。

	×	タクシー運転手	それ以外	・緊急事態宣言が解除され、まん延防止等重点措置へ移行されており、ワクチン接種がまだ全体に行き渡っていないが、ワクチン接種率が景気回復の鍵だと考えている。
企業 動向 関連  (九州)	◎	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・主要取引先からの受注が、3か月前から更に増えている。
	○	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・半導体の動きが良くなっている。それに伴い、関連電機部品も上昇に向かいつつある。
	○	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・機械部品加工の受注が増えている。景気上向きや自社努力の効果も現れている。
	○	電気機械器具製造業（取締役）	受注量や販売量の動き	・自動車関連の状況が前年悪かったが、その反動で持ち直している印象を受ける。材料費や運搬費等の高騰を見極めたい。
	○	電気機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・世界的な半導体不足から、半導体関連事業の生産が好調である。
	○	その他製造業 〔産業廃棄物処理業〕	取引先の様子	・全体的に取引先の生産が向上している。半導体やデバイス関連が好調である。
	○	建設業（社員）	受注量や販売量の動き	・3か月前よりは良くないと経営が成り立たないが、実際には横ばいである。県や市にしても令和3年度の予算は減少し、新型コロナウイルスに予算を大幅に持っていかれているのは否めないが、下請や民間工事を利益なしで施工していかなければ、会社の存続に影響が出てくるため、今はどんな工事でも受注することを最優先に考えて営業をしている。
	□	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・例年梅雨時期は期待できないが、今年は更に新型コロナウイルスの影響で、外食の不振も加わり、かなり厳しい売上である。2年前の売上と比較するとかなり落とした計画をしているが、6月は90%の実績になりそうである。第4波により販売不振が大きく影響している。しかし、厳しい状況であるが、量販店向けや冷凍食品向けの取引は、前年並みの動きをしていることが幸いである。
	□	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・前年から比較すれば良くなっており、今後の消費拡大の予兆になることを期待している。
	□	繊維工業（営業担当）	競争相手の様子	・どの企業も、十分な仕事量が確保できずにいる。従業員には給付金はあるが、中小企業の経営者にはなく、経営は厳しい。
	□	金属製品製造業（事業統括）	受注量や販売量の動き	・引き合いは増加しているものの、受注に結び付いていない。営業活動の取組を見直さなければいけない。
	□	通信業（経理担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルスのワクチン接種が開始したものの、現時点での影響は限定的である。
	□	金融業（従業員）	取引先の様子	・百貨店やスーパーマーケット、コンビニエンスストア等の売上は持ち直しており、また、住宅や乗用車の販売も動きが出ている。しかし、新型コロナウイルスの影響が払拭されていないため、労働需給・雇用者所得とも弱い動きとなっている。
□	金融業（調査担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの感染は沈静化しつつあるが、感染に対する警戒感も払拭されていない。飲食店の客足には、弱いながらも復調の兆しがみられる。一方で、複数の貸切りバス事業者が休業に追い込まれるなど、業種によっては依然として厳しい局面が続いている。	
□	金融業（営業）	取引先の様子	・緊急事態宣言は解除されたが、まだまだ自粛ムードは強い。目に見えて良くなっている業種は、まだ見当たらない。	

	□	金融業（調査担当）	取引先の様子	・製造業では、自動車や半導体関連を中心に持ち直しの動きがみられる。しかし、百貨店や飲食店等のサービス業では、緊急事態宣言は解除されたものの、まん延防止等重点措置が適用され、客足が十分に戻っておらず、依然として低水準での推移が続いている。業種によっては、回復もみられ始めるようになっているが、総合的には3か月前と同様、景気は悪い状況である。
	□	新聞社〔広告〕（担当者）	受注量や販売量の動き	・自治体関連の動きはあるものの、民間広告主の出稿が鈍い。ボートレース等、公営競技関連は好調である。
	□	広告代理店（役員）	受注量や販売量の動き	・客のなかでは景気回復感を抱いている企業が多くなっているが、コミュニケーションコストへの配分が遅れている。
	□	経営コンサルタント（社員）	競争相手の様子	・恒例の情報交換会を行ったが、新しい動きはみられない。
	□	経営コンサルタント（社員）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言の影響で、業務用卸酒販店の売上の落ち込みが激しく、売上高80%ダウンしている。今までに経験したことのないほどである。
	□	経営コンサルタント（代表取締役）	受注量や販売量の動き	・受注件数や金額共に変化がない。
	□	その他サービス業〔物品リース〕（職員）	取引先の様子	・緊急事態宣言が解除されたが、解除前に大きく活動が損なわれることがなかったため、大幅な変動はない。
	▲	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・予定していた受託業務の受注率が低下していることが原因で、状況が悪くなっている。
	▲	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・売上を3月と比較すると大きく落ち込んでいる。地域全体の状態は30%減少しており、当店でも15%の落ち込みになる。
	▲	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・半導体不足の影響で、車以外の家電にも影響が出始めている。また、海上コンテナ不足でブッキングが取れない状況が続いており、輸入も輸出も低調である。
	▲	輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言が解除された今も、物量は余り変わらない。タイムラグが発生している可能性もあり、今後良くなるかもしれないが、感染が再拡大している懸念もあり、予断を許さない。
	▲	金融業（営業担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響を受けていなかった建築業では、ウッドショックが発生し、木材の確保ができないため、受注した工事の進捗が滞っている。また、受注を予定していた建築物の工事が延期になるという事態が発生し、業種全体では低迷しているなか、こうした影響を受けていなかった業種でも若干売上等に影響があり、景気が悪くなっている。
	×	広告代理店（従業員）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの終息が見通せず、景気が回復するまで1～2年ほど掛かると予想される。
	×	経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・5～6月は、客を含め、前年以上にかなり厳しい状況が続く、過去最悪である。
	×	その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	競争相手の様子	・市町村から調査や計画策定の委託を受けているが、市町村の予算は、新型コロナウイルス対策のための経費に多くの予算を当てており、委託業務の予算が少ない状況にある。そのため、指名競争入札の件数も少なく、入札時には予算の5割以下で応札する業者があり、受注できない状況にあることから、景気が悪い。
雇用関連	◎	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数がコロナ禍前の状態に戻ってきている。
(九州)	○	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・ワクチン接種による影響で、依頼求人数が若干増えている。
	○	求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・3月下旬から4月に掛け緊急事態宣言が解除されてから、しばらく回復基調であったが、再度緊急事態宣言が発出で、6月20日までほとんど求人の動きはなかった。今後期待も含め、夏シーズンの需要が高まるため、求人ニーズは急速に高まっていく。

○	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・当県にも発出されていたまん延防止等重点措置が解除され、人の流れも増えている。解除後も飲食店の時短営業が続いていたが、その制限がなくなり、活気が出てきている。
□	人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・注文が増えるでもなく、極端に減少している状況でもない。例年と比較すると減少はしているが、底はみえている。また、直接雇用を考えている企業からの注文も、若干ではあるが増えている。
□	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・人材派遣会社では、ワクチン接種会場案内業務を請け負っているが、それ以外の業種は増えていない。スタッフ募集でもほとんどがダブルワークをしており、厳しい現状がみえる。
□	人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・派遣業界では、求職者の動きも相変わらず鈍く、伸び悩んでいる。企業の求人数も停滞傾向が続いており、新型コロナウイルス関連の業務委託での人の動きはあるものの、派遣としては増加の傾向がみえない。
□	新聞社〔求人広告〕（社員）	周辺企業の様子	・3か月前も緊急事態宣言の直前で決して良くはなく、悪い状態が続いている。
□	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・コロナ禍の緊急事態宣言の延長で、引き続き飲食店等の業種は、休業や自粛により厳しい経営であるが、食品や日用品等生活必需品を取り扱っている企業は好調で、業種による景気の強弱がさらにはっきりしている。
□	民間職業紹介機関（職員）	採用者数の動き	・新卒採用に関して、前月までは前年より大きく伸びていたが、今月は横ばいになっている。企業の厳選採用もあり、余り伸びが感じられない状況になってきている。
□	学校〔大学〕（就職支援業務）	求人数の動き	・2022年卒業の求人は、例年どおりに動いており、企業の採用活動も活発である。内定報告の連絡も前月より増えているように見受けられる。
▲	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が、4月は前期比40%の増加になったが、前月は新型コロナウイルスの感染拡大により3.7%の減少になっている。新規求職者数は、前期比3か月連続で増加となり、有効求人倍率は3か月連続で、前月を下回っている。
▲	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・新型コロナウイルスの感染状況が改善しているものの、人々の外出を控える傾向等は変わらず、業種によっては経営困難に至る所も出ている。
×	*	*	*